

有償（謝礼付き）ボランティア活動をどう広げるか

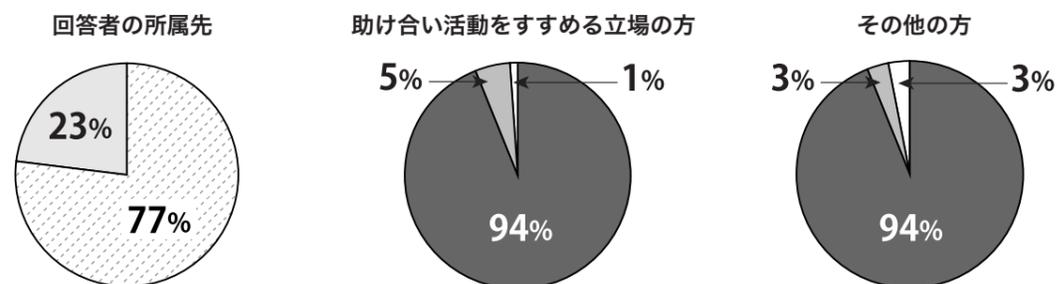
提言

暮らし続けられるまちづくりに、助け合いによる生活支援サービスは欠かせず、有償ボランティア活動として取り組むことは、現時点では大変有効である。加えて総合事業として位置付けることができれば、新規参入や継続、さらに参加者のいきがいにもつながり、住民主体の活動に新たな潮流を生み出すことにもなる。

登壇者

【進行役】	中村 順子氏	(認定特非) コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
【アドバイザー】	袖井 孝子氏	お茶の水女子大学名誉教授
	成瀬 和子氏	(社福) しみんふくし滋賀副理事長
	加藤 由紀子氏	(特非) ふれあい天童理事長
	杉山 久美子氏	生活協同組合コープにいがたくらしの助け合いたんぼぼの会代表
	牧 圭介氏	前 生活協同組合コープこうべ大阪北地区活動本部長

アンケートの結果 参加者概数：180名 回答者数：145名



議事要旨 中村 順子氏

1、有償ボランティア、事例にみる

その有効性と課題について

すべてパネリストは、10年以上の有償ボランティア活動実践者（支援者）であり、長年の実践からその有効性が説得力を伴って提案された。お返し文化を基調とする日本社会の日常にあって「無償ボランティアでは気を遣い頼みにくい」。パネリストに共通したのは利用する側の不都合さからの発想である。特有な文化に基づいた日本特有の制度として有償ボランティアを発展させればよい。さらに、この活動は家族における女性の働きを顕在化させ、女性の自立に寄与してきているとアドバイザーからの助言もあり、力を得て議論が進行した。4人のパネリストの活動報告から見えた有償ボランティア活動の共通項は次の5点である。

①互いに主体性をもった対等な関係で付き合える。②利用する側にも担う側にもなれ、かつ仕組みづくりにも参加できる。③そもそもこの活動は、互いの自立を支援することが基本。④家族のように誰にでもできる活動である。⑤したがって利用しやすい謝礼標準額を設定している。

このような特徴は、つながりの希薄な現在にあってコミュニティを再構築する効果的な手法であることが確認できた。しかし、住民の理解が不十分であったり、利用が進まないなどの課題もあり、個別団体の努力や協議体としての支援、行政の位置づけなど、導入への躊躇を取り払い定着に導く丁寧なプロセスが求められることも浮き彫りになった。

2、活動を広めるためにできること

・団体ができることは、住民が押し付けられてするのではなく、住民自治を発展させる取り組みであることを強調し、発想の転換を図ることが重要である。労働の対価ではなく、助け合いの一つの手法であり、お返しを気にせず対等な関係でサービスが授受できることを多くの市民に理解してもらう工夫がいる。最も有効な広報は口コミであるが、ユニークな事例として寸劇を用いる方法も出された。

・協議体には、現金制・チケット制・時間預託制等有償ボランティア活動の多様な方式の案内や先進事例の情報提供、次に導入のサポートをするなど活動をリードする役割が求められる。

・行政は、自発的な市民の活動を積極的に後押しするため、総合事業との関連付け、一般介護予防事業での役割等何らかの地域支援事業に位置付け、活動の公益性や継続性を支援する。広報誌による紹介も積極的に紙面獲得に努め周知する。

3、制度サービスとの関係性

総合事業や一般介護予防事業に位置付けている自治体は少数であるが、住民主体のサービスとうまく連携している自治体は、協議体のメンバーに総合事業側（SCなど）と住民主体側（住民主体の活動に属する助け合いのコーディネーターなど）の双方が構成員として同じテーブルについているところである。この場でSCと助け合いのコーディネーターの関係ができ、ニーズの発掘や調整が可能となっている。公式見解としても、社会保障審議会介護保険部会（2019・8・29）の一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会資料に「有償ボランティアの取り組みについても推進を図るべき」との記述が紹介され関係性の整理ができた。

助け合いのコーディネーターはなんら保証された存在ではないが、外部に向けた窓口をはっきりさせることは社会資源としては必須である。また有償ボランティア活動が受け入れられやすい領域は、個別性・継続性・広域性・専門性が要求される活動であり、しかも謝礼金が最低賃金以下の設定であることへの理解はあるが、あまりに低額なのは互いの尊厳にも影響するので慎重に設定してほしいとのアドバイスもあった。

本分科会参加者の多くは、仕組みを計画する立場の方々であったが、事例を受け議論が進み疑問が解決するうちに、最終的には8割の参加者が導入したいとの決意を表明し、今後の有償ボランティア活動の新展開にうねりを感じた。

■ 寄せられた声から

- ・進行役の話と内容が役に立った。200人近く参加するとパネリストの説明にあったように「大きいことはいいとか」で一般論になってしまう。もっと実務面での困り事を知りたかった。